

⑧加子母風起こし実行委員会

～ 田中千香土音楽祭 世界で唯一の芝居小屋でクラシックコンサート ～

◆伝統・継承 ◆国内観光 ◆子ども(教育・体験)



第19回 明治座クラシックコンサートの様子



加子母デイサービス出張コンサート



市内中学校で出張コンサート

活動のきっかけ

明治27年に村の有志によって建てられた芝居小屋「明治座」は劇場型の農村舞台で、毎年9月に地歌舞伎が公演されている。平成10年に明治座を訪れた東京芸術大学名誉教授の故田中千香土氏が「普段クラシック音楽に触れる機会のない山村の子どもたちに本当の楽器の音を聴かせたい」と、東京芸大の学生や音楽家により「第1回明治座クラシックコンサート」を開催。

活動の概要

◇平成10年より「明治座クラシックコンサート」を毎年開催。コンサートの期間は演奏者の数名が一週間加子母地域に滞在し、加子母地域、市内各施設(保育園・小学校・サービスセンター、市役所・病院)で出張コンサートを開催。

◇活動のきっかけとなった「子どもたちの為のクラシックコンサート」も毎年開催しており、ここ数年は隣の東白川村の中学生も参加。

活動の成果

◇明治座クラシックコンサートや加子母歌舞伎公演で「明治座」が全国に発信。

◇平成14年度からの明治座の無料開館は、平成28年度までに来館者は22万人を超える。

◇平成27年10月に明治座は、改修工事で、創建当初の板葺き石置き屋根に復元。

◇長年続く交流により、世界で活躍するようになった演奏者も、田中千香土音楽祭に合わせて海外から参加することもあり、地域の子どもたちは1年に一度、本物のクラシック音楽に触れることの出来るこのコンサートを毎年楽しみにしている。

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2(加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

㊦加子母教育協議会

～ 地域が先生、大好き加子母 加子母教育の日 ～

◆伝統・継承 ◆子ども(教育・体験)



教育の日(中学2年)加子母で働く大人との談話



教職員一日研修 神宮備林にて



(小学1年)加子母昔話の読み書きせ

活動のきっかけ

◇中津川市加子母地域では過疎化・少子高齢化が進んでいる。平成18年の市町村合併で教育委員会が統合され、加子母地域として教育が稀薄となる事を心配した地域の人により、教育委員会の役割を担える組織として「教育協議会」を発足。合併前より続いていた教育の日を継続。

活動の概要

◇加子母教育協議会は「加子母の子ども達を地域ぐるみで育てよう」をテーマに地域と保育園、小学校、中学校をつなぐ学校支援活動に取り組んでいます。

◇毎年11月に開催する「加子母教育の日」は、加子母のすばらしさが大きなテーマで、「地域の人がつくる参加授業」では、地域の人が講師で学校では学べない加子母を知る授業を実施。

◇夏休みを利用して、新たに赴任してきた先生を対象に、地域を1日かけて巡り、子ども達の生まれ育った環境や地域の歴史を詳しく知ってもらう、加子母1日研修を実施。

活動の成果

◇地域の人材や文化を活かし地域の大人を招いて行う教育の日は、子どもたちがふるさと加子母の素晴らしさを学ぶ機会となり、将来地域を背負う人材育成に繋がると期待される。

◇子供たちと地域の人たちとつながりが出来る事で、地域で気軽に声かけができ、子ども達の安全安心な環境づくりにも繋がっている。

◇「地域の人がつくる参加授業」では、先生役の地域の高齢者も大変に張り切っており、子どもだけではなく多くの大人にも参加して欲しい面白い参加型授業参観

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2(加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

⑩加子母花づくり会議

～ 住民総出の花づくり 地域を動かす子ども達 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験)



国道沿いに咲く花 8月頃



アドバイザーから中学生に指導



花づくり当日の作業

活動のきっかけ

加子母の中学生が国道沿いのゴミ拾い美化運動の一環で、地域の一部有志が行っていた花植え活動に関わったことがきっかけとなり、昭和59年に花づくり会議が組織され、中学生たちと協力して花づくりを全地域活動として推進。

活動の概要

◇中学生が育てた花苗を地域住民総出で、加子母地域を通る国道257号線沿い約10kmに移植する活動を実施。現在は全域でベゴニアを植えている。

◇「花づくり」当日には、加子母地域の大人から子どもまでが集まり一斉に花を植え、併せて周辺の美化作業(草刈り、ゴミ収集など)を実施。作業の終了後には各区でレクリエーションや親睦会を開催し地域住民の交流を行っている。

◇花の管理(夏場の水やり、除草など)は月に数回、花が枯れる11月末頃まで地域住民が実施。

活動の成果

◇地域全体による花植えと花の管理を実施することで、景観美化や清掃の意識が高まった。また、同じ花植え活動を行う、隣接する付知地区と花づくりの情報を共有し連携を計画。

◇加子母地域の国道沿いを彩る花は、夏から秋の風物詩として加子母地域住民や、国道を通る観光客に広く親しまれている。

◇住民総出の花づくりは中学生の「花咲委員会」が主体となり、地域と協力して花を育てていくため、地域活性化や青少年の育成、生涯教育に効果を発揮。

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2(加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

岐阜県中津川市

⑪加子母むらづくり協議会・NPO法人かしもむら ～ 出かけよう！「かしも軽トラ朝市」！～

◆地産地消 ◆高齢者の活躍 ◆その他(子育てママや女性の収入)



軽トラ市全景



野菜や果物のお店



ママの手作りショップが大人気

活動のきっかけ

加子母地区における、少子高齢化対策、農林業の後継者確保、遊休農地の活用、女性や高齢者の収入源確保などの課題解決のため、むらづくり協議会の地域づくり分科会で平成24年度から2年がかりで検討・準備をし、51名の出店者で、第1回軽トラ市開催。

活動の概要

◇地域づくり対策の一環として「軽トラ朝市」を開催。毎年6月～11月までの第3日曜日に開催し平成29年11月で21回目の開催。毎月200人～300人が来場。年間2000～3000人来場。

◇出品は野菜、果物、花、苗、木工品が中心で、毎月出店者に種まき情報や出店情報を個別配布し、出店者の継続、増加、資質向上の工夫を図る。

◇20名からなる軽トラ市振興チームを発足し、月一回会議を開催して運営振興を図る。

活動の成果

◇軽トラ市は単なる産直市場だけでなく、防災グッズや防災食体験、子育て世代の交流、地域のハローワーク情報提供、観光情報の提供、アンケートの収集、域学連携の大学生の活動など地域インフラとして活用が広がる。隣町からの出店希望者があり今後の拡大に期待。

◇軽トラ朝市の認知度が上がり、リピーターや固定客が増加。

◇出店内容も、子育て中のママの手作りショップ、キッズ遊び場、明治座歌舞伎グッズ、防災ブース、手作りギター、木工品など多様化した。域学連携の大学生の協力人数も増加。

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2（加子母総合事務所）

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

⑫株式会社サラダコスモ

～「ちこり」で地域、高齢者、農業の元気！～

◆伝統・継承 ◆「食」の提供・活用 ◆6次産業化



ロコミで人気の栗きんとん絞り体験



モーニングも発芽野菜のビュッフェ



日本一野菜が食べれる
オーガニックレストラン

活動のきっかけ

休耕地の増加、後継者不足の課題を解決できる野菜として欧州の「ちこり」国産化に挑戦。
農業に親しみ学ぶ場として、地域社会の活性化にも貢献できる農業教育型観光生産施設「ちこり村」を立ち上げ、農業の振興、自給率向上、高齢者雇用等の地域活性化を目指す。

活動の概要

◇中津川は栗きんとん発祥の地、地元の大切な食文化を残したいとの思いから、地元のおばあちゃん達から地元の歴史や文化、栗きんとんの作り方などを教えてもらいながら、自分だけのオリジナルお土産を作ることができる、栗きんとん絞り体験を提供。

◇無添加・無農薬・無漂白のもやし栽培、かいわれ大根の無農薬・無化学肥料栽培、子大豆もやしの商品化など常に安全、安心のキーワードで商品開発。

◇地元農家で採れた食材で手づくり家庭料理を提供するレストランやベーカリー、カフェ、チコリ工場の見学コース、チコリから作る焼酎の製造工場見学など、老若男女が楽しめる「ちこり村」で生産加工販売体験を実施。

活動の成果

◇栗きんとんクリームデニッシュなど中津川の特産品を使ったパンやスイーツも開発。

◇栗きんとん絞り体験などは人気が広がり、子供会や老人会、家族やお友達同士など幅広い来客によってちこり村の年間来場者が増加。

問合せ先

〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林1-15

TEL:0573-62-1545 FAX:0573-62-2170

⑬株式会社中津川・七ツ平高原

東海農政局選定

～ 元気な高齢者・女性が地域の課題を解決！ ～

◆雇用 ◆6次産業 ◆その他(耕作放棄の解消)



整備した栗畑。ごみ減量も兼ねて栗の殻を敷いている



名古屋市の朝市村で販売



あじめこしょうの乾燥

活動のきっかけ

平成16年、知人農家の依頼で耕作困難で耕作放棄地となっていた農地を買取り、本業の土建業で使用する重機を駆使して2年を掛けて畑に整備、名産品の栗や伝統野菜等の栽培を開始。

活動の概要

◇耕作放棄地を整備し、特産の栗350本を植栽し1t以上を生産。また、管理困難となった農地を借入し、年間約120品目の有機栽培農産物を生産、名古屋市の朝市村等で消費者に直売。

◇栽培困難な伝統野菜の在来種の唐辛子「あじめこしょう」の栽培に取り組み800本を栽培、平成23年から6次産業化に取り組みラー油「あじなラー油」や伝統的な味付のおかずみそ「あじなみそ」に加工し販売。

◇市から「ふれあい牧場」の運営を受託し、レストラン経営、牧場体験、農業体験を実施。

活動の成果

◇管理困難な農地の借入依頼が増加し、放棄地になる前に借り受けることで、耕作放棄地化を未然に防止。整備した耕作放棄地と合わせて3.8haを活用し、野菜、栗、米、椎茸等を栽培、直売での対応から栽培品目を増やし、年間の売上は約1200万円。

◇地元の和菓子店と提携し特産品の栗菓子の原料として栗を出荷、栗の地産地消が広がる。

◇伝統野菜「あじめこしょう」の認知度が上がり、加工品の販売も安定。

◇農作業や農業関連事業に加え、ふれあい牧場の運営を受託し、地域の高齢者や女性に働く場を提供。また、牧場体験、農業体験の提供で名古屋市の朝市村等の消費者との交流が拡大。

問合せ先

〒508-0006 岐阜県中津川市落合314-15

TEL:0573-67-9488 FAX:0573-67-9489

⑭どあい自然学校

～「どあい自然学校」で親子自然体験学校～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験)



火を起こし、釜でごはんを炊き、はしをつくって
青竹とほう葉で青竹ハンバーグを作って食べる



冷たい透明な水で川遊び



親子で協力して食事づくり体験

活動のきっかけ

当地は、15年ほど前までは、「らんぷの森どあいビレッジ(キャンプ場、オートキャンプ場)」としてにぎわっていたが、土砂崩れで道路が通行止めになってから休止状態だった。

平成24年から加子母むらづくり協議会が中心になって再開発に着手し、草刈作業や伐採等の環境整備を行い「どあい自然学校」を開校。

活動の概要

◇コンセプトに、「電気もない、携帯も通じない自然の中で文明から離れて自然の中で生きる力を育むこと」を掲げ活動。

◇子ども会の親子を対象に、火起こし体験、食事作り、自然のものを利用した器や箸づくり、川遊び、植物、動物等の自然観察を実施。

活動の成果

◇今までの活動が評価され、平成29年には5つの区の子ども会親子から申し込みがあり、約250名の親子が、「どあい自然学校」に参加。

◇5年前に、人が集まることを目的に様々な取組を進め、「どあい自然学校」を始め「アイチカラ」の合宿や、「加子母るツアー」等で、活気が戻る。

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2(加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700